２００８年4月１４日

味噌漬け実験報告書

袴田厳さんを救援する清水・静岡市民の会　山崎俊樹
袴田事件弁護団　弁護士　小川秀世

１．　実験日時及び場所

血液採取及びステテコ・半袖シャツへの付着

２００８年４月８日（火曜日）午後１２時から１２時３０分まで

味噌漬け実験

２００８年４月１３日（日曜日）午後１時から５時まで

於：静岡市清水区宮代町５番７５号「辻生涯学習交流館」第一会議室

２．　使用したもの

(ｱ)　衣類

白半袖シャツ（綿１００％　メリヤス生地）及び白ステテコ（綿１００％　さらし生地）は、新品をそれぞれ２着ずつ購入し、着用後洗濯し自然乾燥させることを２回繰り返した。

ネズミ色スポーツシャツ（綿６５％、ポリエステル３５％）及び鉄紺色ズボン（ウール１００％）は 新品をそれぞれ１着ずつ購入し、水洗い後自然乾燥させた。

青色ブリーフ（綿８０％、ポリエステル２０％　タオル生地）は、新品のまま使用した。その他、白半袖シャツと同質のメリヤス生地９枚（約３０ｃｍ四方のもの）

(ｲ)　麻袋

麻袋は、使用回数は不明であるが、何回か使用を繰り返されたものを４枚購入し、３枚を使用した（赤七代替品と呼ばれるもので、用途は米、大豆など穀物を入れるもの）。

(ｳ)　味噌

醸造開始から１年以上経過した赤味噌３０Ｋｇ（酵母が生きており発酵が進むもの　清水区・池谷味噌店製）とヤマタカ味噌製商品名「田舎みそ」 1Ｋｇ入りのものを２袋（合計２Ｋｇ）

(ｴ)　味噌のたまり液（味噌が熟成するときに発生する液体、説明書を末尾に添付した）
百川味噌株式会社製　　６００ｍｌ入ボトル１２本(製品によって色が異なるため濃い色のもの８本、薄い色のもの４本を用意した)。

(ｵ)　対照写真
昭和４２年９月２０日付佐藤秀一作成の鑑定書（１７分冊２３４８丁以下）添付の白半袖シャツ及びステテコのカラー写真を複写したもの（Ａ３サイズ）を用意した。

(ｶ)　その他
秤、巻き尺、バケツ、たらい、ポリ手袋、ゴム長靴

３．　実験実施者
袴田巌さんを救援する清水・静岡市民の会会員数名
なお、実験経過は、デジタルカメラ、ビデオカメラによって記録した。

４．立会人
弁護士　小川　秀世
弁護士　伊豆田　悦義

５．　血液の付着
２００８年４月８日、実験協力者２名からそれぞれ血液25ccを採血し（抗凝固剤は使用しない)、直ちにステテコ２枚、白半袖シャツ２枚及びメリヤス生地小片９枚に適宜付着させ、その後それらを自然乾燥させた。

６．第１実験
血液を付着させたメリヤス生地の味噌漬け

①　実験１
Ｉ　赤味噌６００ｇと濃い色のたまり６００ｍｌを混ぜ合わせる。

混ぜ合わせているところ

Ⅱ　上記の溶液に，人血を付着させたメリヤス生地をそのままつけ込み、すぐに取り出す。

取り出したところ

Ⅲ　取り出した生地を水の中に入れて軽くゆすぎ，付着した味噌を落とす。

水の中でゆすいでいるところ

水から出したところ

Ⅳ　戸外で自然乾燥させる。

②　実験２

実験１で使用した味噌とたまりの混合液の中に、麻袋を切り取ったものに入れたメリヤス布小片を入れ、１分程度軽く押し、みそ漬け具合を比較した。

麻袋を切り取ったものの中に血液を付着させたメリヤス生地を入れる。

麻袋ごと味噌とたまりの混合液の中に入れ、軽く１分程度押す（左側に見えるのは、１回目に麻袋なしで漬けたもの）

引きあげて対照写真（白半袖シャツ）と比較したところ

同上

③　実験３

味噌を市販のヤマタカ味噌製「田舎みそ」に代え、同味噌 600ｇに濃い色のたまり 600ml を混ぜ合わせて、実験２と同様の操作を行った。

味噌とたまりを混ぜているところ

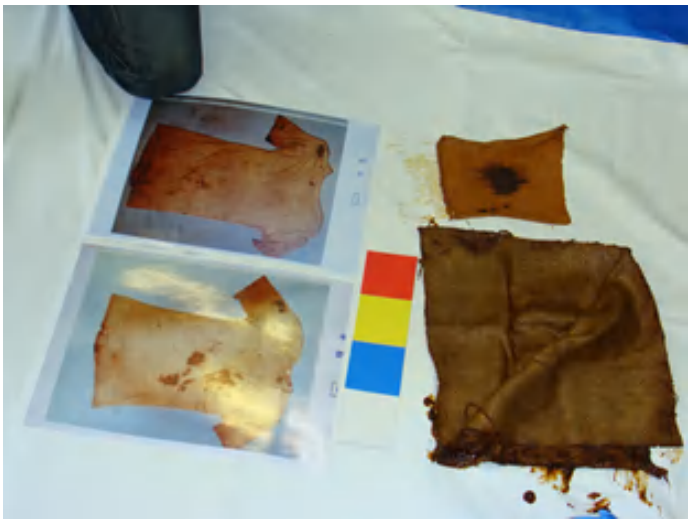
麻袋ごと味噌とたまりの混合液の中に入れ、軽く１分程度押した後、取り出したところ

④ 実験４

赤味噌６００ｇと薄い色のたまり６００ｍｌを使用して、実験２、３と同様の操作を行った。

バケツに取り出した赤味噌６００ｇ

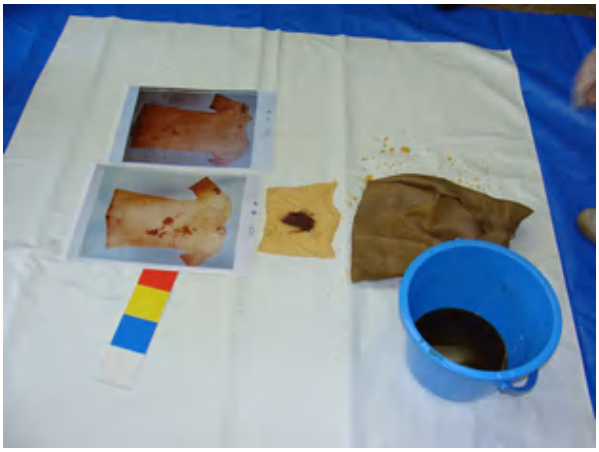
たまり６００ｍｌと混ぜる



実験２、３と同様麻袋に入れて上記混合液の中に漬け、手で軽く押した後、取り出したところ。

⑤　実験５

薄い色のたまり６００ｍｌのみを使用して、実験２～４.と同様の操作を行った。

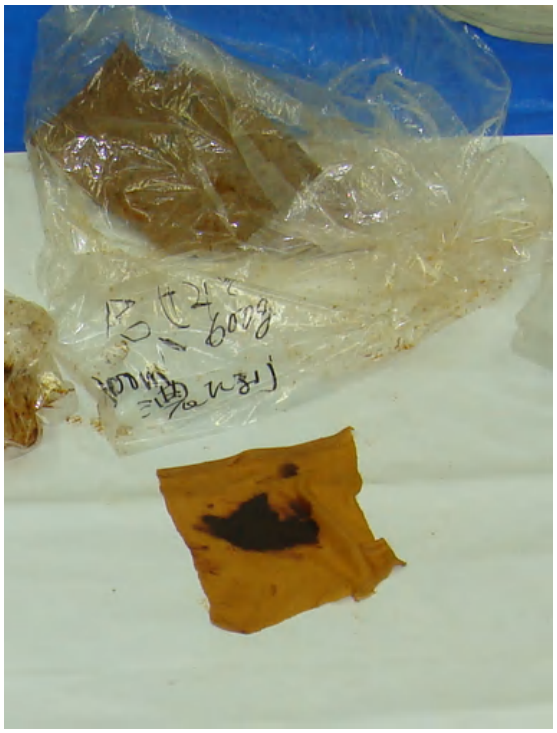


色はもっとも薄い

⑥ 各実験結果の比較

実験１～５の結果　味噌漬け後のメリヤス生地を並べて色の濃さを比較した。

実験１　　実験２　　実験３



実験 4

実験 5

以上のように、味噌の種類とたまりの混合割合によって、薄い色から濃い色まで様々な濃さの味噌漬け衣類が容易に出来ることが明らかになった。

６．　第２実験

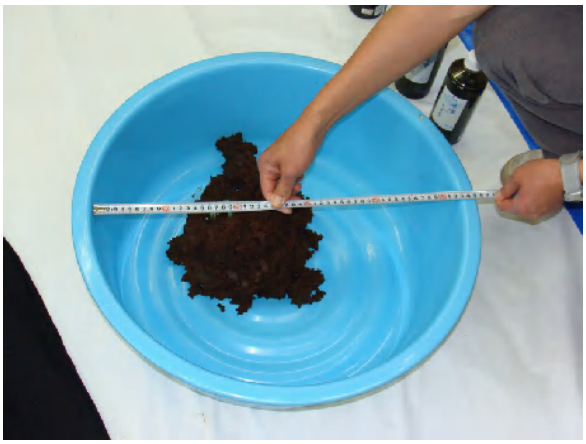
赤味噌２４００ｇと薄い色のたまり１２００ｍｌ、濃い色のたまり３６００ｍｌを使用して、実物大の麻袋の中に、鉄紺色ズボン、ネズミ色スポーツシャツ、ステテコ、白半袖シャツ、青色ブリーフの５点の衣類を入れて味噌漬けの実験を行った。

ステテコ、半袖シャツには人血を付着させた。

使用した麻袋のサイズは１０３５ｍｍ×６２５ｍｍ

①　使用した味噌とたまりの混合液

赤味噌２４００ｇと薄い色のたまり１２００ｍｌ、濃い色のたまり３６００ｍｌをたらいに入れてかき混ぜる。



②　５点の衣類を麻袋に入れる。

用意した５点の衣類（半袖シャツとステテコには人血を付着させた）を，無造作に麻袋の中に入れる。

③　衣類が５点が入った状態の麻袋まるめる。

本件５点の衣類の発見時の状態を模し、衣類の詰まった底部を中心にして丸める。

④　味噌とたまり混合液への漬け込み

上記③の麻袋を上記①の味噌溶液の中に漬け込んだ後，約２０分間間足で踏みつける作業を行う。この作業は，味噌とたまりの混合液を，麻袋の中の衣類にまでしみこませるために行ったものである。

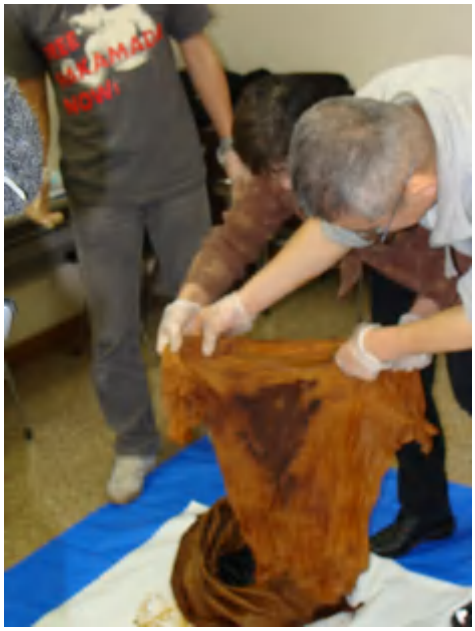
⑤　味噌漬け状態の確認

以上を行った後に，麻袋を味噌たまり混合液から取り出し，さらに衣類を麻袋の中から取りだして，その状態を確認する。

全体の状態

スポーツシャツ

ブリーフ



半袖シャツ

ステテコ

麻袋と全ての衣類を取り出したところ

このように、わずか２０分間たらずで、味噌に漬かった衣類の色具合、血液の状態、衣類のシワの発生具合など、事件の証拠とされた「５点の衣類」とほぼ同じ状態の衣類ができることが明らかになった。

以下、ステテコ、半袖シャツの（前側）、（後ろ側）の外観を示す。

ステテコ（前側）

ステテコ（後ろ側）

半袖シャツ（前側）

半袖シャツ（後ろ側）

対照写真との比較

半袖シャツ（対照写真との比較）

ステテコ（対照写真との比較）

なお、対照写真は、昭和４２年９月１日付の鑑定嘱託に基づき、静岡県警察本部の鑑定監である佐藤秀一が実施した鑑定書（同年９月２０日付・確定記録の第１７分冊２３４８丁以下）に添付された写真を撮影し，それを拡大プリントしたものである。

７．参考実験

４月１３日の実験に先立ち、袴田巌さんを救援する清水・静岡市民の会では、２００７年１０月６日に、白ステテコに人血を付着させ、麻袋に入れた状態にして、約１年醸造した赤味噌に漬け込んでいた。

上記１０月６日から約７か月を経過した今回の実験前日（４月１２日）、この麻袋を赤味噌から取り出し，その状態を確認した。

味噌漬けから約７ヵ月を経過したものであるが、ほとんど味噌の色と同色になっている。

以 上